

山陰新幹線の早期実現へ 330人参加し舞鶴で大会開催

「山陰新幹線の早期実現を求める舞鶴大会」が、10月6日舞鶴市商工観光センターで行われました。

大会には、国会議員をはじめ、関係市町の首長や議長、議員など330人が参加。地方創生に対する「新幹線ネットワーク」の重要性と、大阪から日本海側の主要都市を経て下関までを結び、“日本海側国土軸”を形成する「山陰新幹線」の早期実現を確認するとともに、整備計画への格上げや、国の予算の拡大と地元負担の見直しなど、4項目を盛り込んだ大会決議を満場一致で決定しました。

大会の最後には、地元経済界を代表して、舞鶴商工会議所の小西剛会頭が、本市の未来を拓き活性化に不可欠な「山陰新幹線早期実現」について、「ガンバロー三唱」の音頭をとり、参加者全員で力強く誓い合いました。

また、大会終了後に開かれた記念講演では、京都大



小西会頭の「ガンバロー」で早期実現へ決意新たに
(10月14日：舞鶴市商工観光センター)

学大学院工学研究科教授の藤井聡氏が、舞鶴市を通過するルート“整備効果”について、「試算すると、時間的短縮はもとより、鳥取県、島根県の県民所得にも巨額の経済効果がある。また人口増加にも寄与する」ことが説明されました。

舞鶴赤れんがハーフマラソン2019 ランナー約2,600人が力走

赤れんが倉庫群や海上自衛隊北吸棧橋、第23航空隊基地など、舞鶴ならではのコースを走る「舞鶴赤れんがハーフマラソン」が、10月14日に開催されました。



ハーフマラソンのスタート(10月14日：舞鶴市東体育館東側)

当日は、北は北海道から南は沖縄県までの全国各地から、約2,600人のランナーが出場。

ハーフマラソンの部は、午前9時30分に舞鶴市東体育館横を一斉にスタートしました。沿道からは、「ファイト」や「頑張れ」など、力強い声援や大きな拍手が、ランナーの背中を後押しするように送られていました。また、コースの中盤にあたる海上自衛隊北吸棧橋では、艦船に国旗や国際信号機を掲揚し、ランナーを激励。選手の中には、隊員と一緒に写真を撮る姿も見受けられました。

ハーフマラソンの部では、気温が20度を下回り“曇り空”という絶好のコンディションの中で、男女とも大会新記録が生まれるなど、大いに盛り上がった一日となりました。